

欧州紀行(7) フィヨルドの航海

2023-6-20 池田良穂

今回乗船したクルーズの目玉はフィヨルドのクルーズです。太古の氷河時代に厚く固まった氷が、温暖化によって溶けて、川のように流れだして陸地を削ったのがフィヨルドで、長いものだと海岸線から 100km 以上も入り込んだ、曲がりくねった細長い入り江を作りました。水深は深く、両岸の山は 1000m も切り立った断崖になっています。今回のクルーズで訪れるフィヨルドは、ヨステダールフィヨルドと呼ばれるフィヨルドで、北海からは 100km 近く内陸に食い込み、最奥部近くでは 1000m 近い絶壁が両岸に聳え立つ場所もあります。そんなフィヨルドの中には小さな集落が点在して、集落を結ぶ小型フェリーも運航されています。

同フィヨルドの最奥部にある集落がオルデンで、人口 800 人余りの小さな村ですが、今では年間 100 隻余りのクルーズ客船が寄港して一大観光地となっています。この観光の目玉は、氷河と、そこから流れ出る清流と湖です。

オルデンには大型船も停泊できる簡易岸壁が造られており、17 万総トンの「アンセム・オブ・ザ・シーズ」も、この岸壁に着きました。船の中央部の一部だけが横付けできる小さな岸壁が造られ、船首の係船索は 2 つのブイにつながれました。つなぐ作業は、現地の観光用モーターボートが行っていました。船尾の係船索は、陸上の駐車場の中に建てられた 3 つの小さな係船柱に繋がれました。大型船の強風時に耐えられるのかと心配になりますが、強風時にはサイドスラスターとポッド推進器によるダイナミックポジショニングシステムで、係船索に働く張力を減らすようになっています。

さて、フィヨルドのクルーズは、行き帰り共に約 3 時間の航海で、まさに絶景が続きます。夏のヨーロッパの人気クルーズ目的地のひとつで、クルーズ料金が高くても乗客が一杯になるのは、北米のアラスカクルーズとよく似ています。オルデンで乗った 1 時間ほどの観光バスの中で流れたアナウンスで、クルーズ客船がたくさん来るようになって村が観光業で潤うようになったと解説していました。観光公害がある一方で、観光によって潤っている場所もあるということなのでしょう。





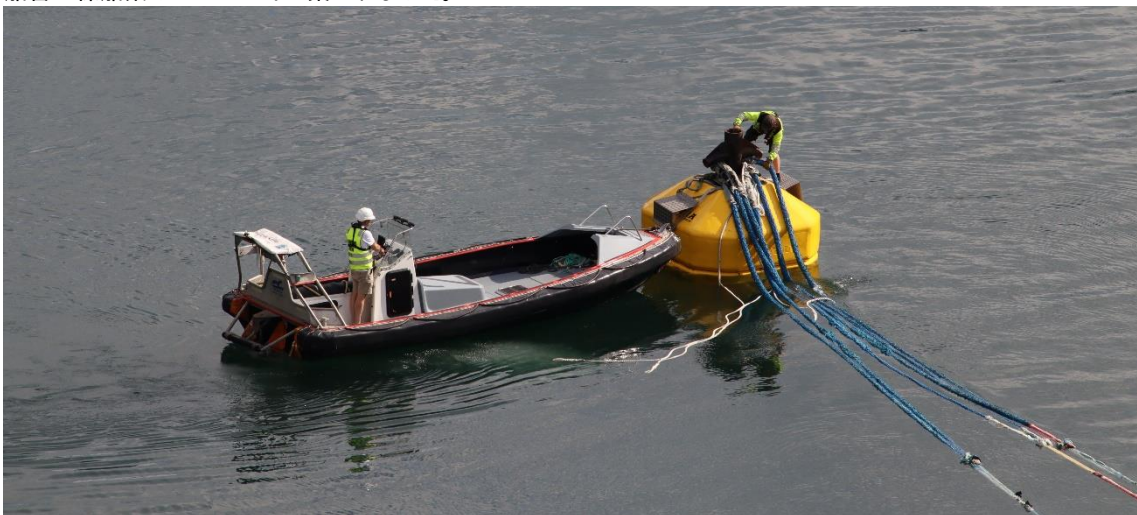
途中で追い越したポナン社の探検クルーズ客船「Le Dumont D'Urville」です。静かな水面に美しい波紋を残し、水面に映った逆さの影も見えました。



オルデンに停泊する「アンセム・オブ・ザ・シーズ」です。



船首の係船索は2つのブイに繋がりました。



地元のボートによる係船索をブイにつなぐ作業です。



オルデンの非常にシンプルなクルーズ客船停泊施設。従来の沖止めから岸壁停泊が可能となっています。



オルデンに停泊した「アンセム・オブ・ザ・シーズ」の船上から奥の氷河地帯を望みました。



オルデンの奥に残る氷河の一部を遠望しました。氷河まで行くオプションツアーもあり、観光バスが 10 台前後でいました。かなり遠く、観光バスの帰着が遅れて、船の出港が 30 分近く遅くなりました。



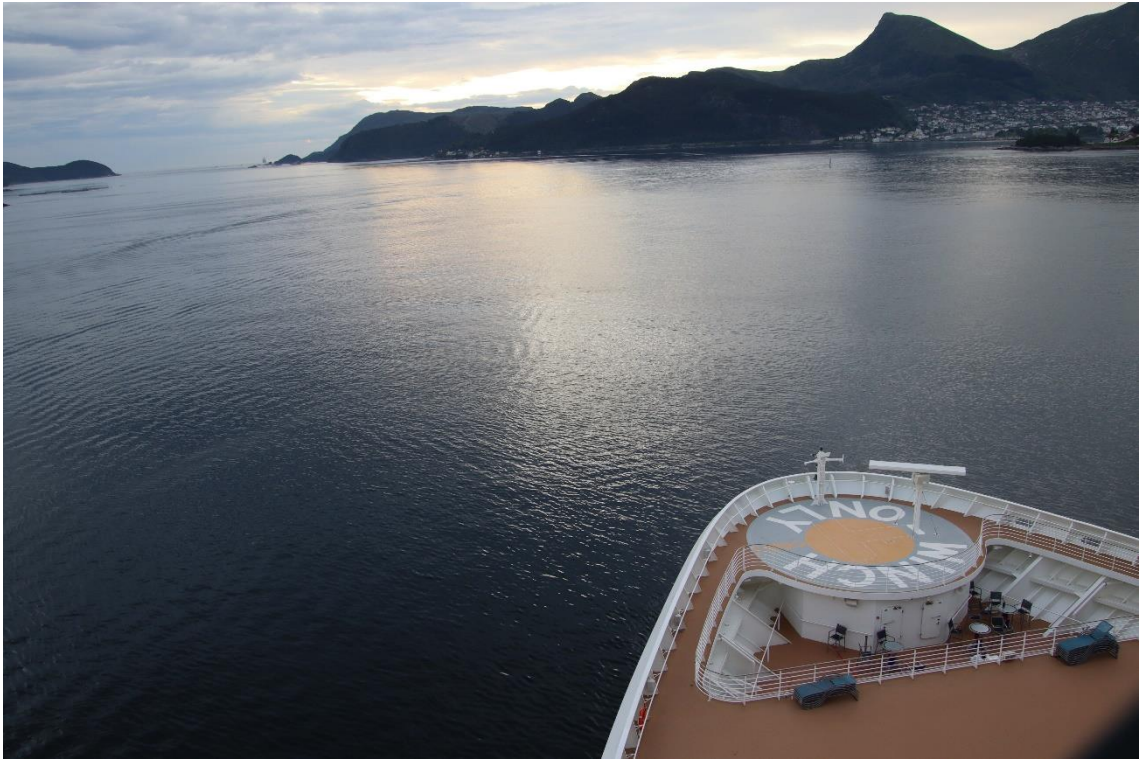
オルデン停泊中に、片舷のすべてのライフボートが下ろされて、検査と船員の定期訓練が行われていました。



フィヨルドの両岸の集落を結ぶカーフェリー。



フィヨルド内のところどころに小さな集落が点在していました。



フィヨルドの出口です。フィヨルド内片道 3 時間の航海でした。